

「子宮頸がん大学連携セミナー」開催報告

子宮頸がんは、近年、20代～30代の若い女性に増えていますが、この世代の方が、子宮頸がんに関する正しい知識を持つ機会が少ないのが現状です。

そこで、愛知県では、大学生の皆さんに正しい知識を持っていただくため、平成26年度から大学と連携し、セミナーを開催する取組を始めました。

令和5年度は愛知教育大学において、下記のとおり実施しました。

開催日時 令和5年11月8日（水）午後1時30分～午後3時00分
開催方法 対面開催
主催 愛知県・愛知教育大学
参加者 上記大学の学生・教職員 25名



講演① がんは予防できると思いますか？

<講師>

愛知県がんセンター研究所 がん予防医療研究領域
がん情報・対策研究分野長 伊藤 秀美 先生

<内容>

伊藤先生には、がんができる仕組みと原因、がんを予防するための生活習慣、早期発見と早期治療の大切さについてお話いただきました。また、若い女性に増えている子宮頸がんの症状や原因についてもご説明いただき、子宮頸がん検診についての啓発を行っていただきました。



講演② 大学生でがんになった私が今伝えたいこと

<講師> 山下 芙美子 さん

大学2年生でがん罹患され、現在は社会保険労務士としてご活躍されています。

<内容>

がんの体験者である山下さんから、大学生活とがん治療の両立や就職活動の際のご経験についてお話をいただきました。そして、ご自身の体験を踏まえ、人と人とのつながりが大きな支えになること、がんを抱えて生きることは特別なことではないと、大学生の皆さんにメッセージをいただきました。



参加者アンケート回答者（21名）の61%が「子宮頸がんの主な発生原因がHPV感染であること」を知らず、また、67%の方が「子宮頸がん検診が20歳から推奨されていること」を知らない、という結果でした。

愛知県では、今後もこのようなセミナーを実施し、若い世代の方に、がんとがん検診についての正しい知識を持っていただく機会を増やしていきたいと思っております。

<参加者アンケート（自由記述欄）より>

*がん経験者の方のお話を聞く機会が今までなかったので、今日のセミナーに参加してがんについて考えることができよかったなと思いました。養護教諭を目指しており、がん教育に関わる機会も今後あると思うので、子どもたちががんについて正しい知識をもち、理解を深められるような指導ができるようになりたいと思いました。

*大学2年生という自分と同年代の頃にがんになってしまった方の話は特に身近に感じましたし、自分にも起こりうることだと強く感じました。今回お話が聞いてよかったです。

*保健科の授業で受けていた内容でしたが、ここまで詳細にお話をうかがうことができよかったです。理解が深まりましたし、他人事とは思わずしっかり知っている状態で関わっていききたいし、がんにならないための生活を心がけていきたいです。